

参 考 資 料

(第2回市民会議配布)

市民会議の役割・位置づけについて（再確認）

この市民会議の目的は、旧野津高校跡地の再活用に向け、臼杵市が作成する再活用の方針に、市民の幅広い意見を反映させること、としています。

市民会議の役割は、再活用に向け市民同士で話し合い、市への意見を出し合うことであり、市民会議としての提言や一つの再活用案をみんなで作るなどといった意思決定をすることは想定していません。

参加者の皆さんのご意見は市が責任をもって“再活用の方針”に反映させたいと考えていますので、様々な立場からより多くの意見をお聞かせください。

当初掲げていたコンセプトについて（補足）

当初の利活用の際、臼杵市では「農林業の振興」と「地域住民の交流の拠点」という2つのコンセプトを掲げていました。高校跡地を県から払い下げを受ける際、このコンセプトのもと「利活用計画」を作成し、県からの補助を受けて施設の改修を行いました。

初回のガイダンスの際にお話ししたとおり、今回の再活用を検討するうえでは、当初の2つのコンセプトを継承しつつも、検討過程でより良い案がある場合には柔軟に対応する、こととしています。

現在、県から払下げ等の協議で示されている条件としては

- ・地域資源を活用した産業振興につながる取組（農産品や水産物の加工・直売施設など）
- ・人材育成や雇用創出につながる取組（介護・看護人材の育成施設など）
- ・観光やツーリズムの振興につながる取組（宿泊施設、地域の伝統文化の展示施設など）
- ・防災力や福祉の充実など住民の安全・安心につながる取組（地域の防災拠点施設など）
- ・その他、特に住民福祉の向上や地域活性化につながると認められる取組

の6つが示されており、この範囲であれば仮に当初の計画から変更が生じても対応可能だと考えています。

施設及び敷地の売却は可能なのか（傍聴者アンケートより）

旧野津高校の敷地については、県から払い下げを受ける際に「供用開始から8年間は指定用途に使わなければならない、第三者に譲渡してはならない」とされています。このことから、市としては、この敷地を直ちに民間に売却するという考えはなく、あくまで市が所有した状態で、行政または民間の企業や団体に活用してもらうことを前提に検討しているものです。

施設及び敷地への企業誘致について（傍聴者アンケートより）

十分考えられると思います。ただし、当然県から示されている6つの条件を踏まえたうえで市が作成する“再活用の方針”に沿ったものであることが前提となるため、どんな業種のどんな企業でも構わないということではありません。

施設の耐用年数や解体費用について

普通教室棟は昭和40年、福祉実習棟は平成8年にそれぞれ建築されており、それぞれ築後約60年、約30年が経過しています。鉄筋コンクリート造の校舎の法定耐用年数は47年とされていますが、これは税法上の基準であり、建物としての寿命を表すものではなく、「あと何年使える」ということを明確に答えられるようなものではありません。

尚、普通教室棟は平成8年に外壁補修、屋上防水工事などの大規模改修工事、令和3年に外壁塗装、屋上防水工事と、施設の長寿命化につながる工事を行ってきていることから、建設から60年近く経過しているものの、建物としてはまだまだ使えるものと考えています。

このような施設の長寿命化につながる工事については、施設が使えない状態になった後の解体工事と同様に、建物の所有者である市が行うため、再活用事業者の負担になることはない想定しています。（元々あった特別教室棟と管理棟の解体は2棟合わせて約1億円程度でした。）

ご指摘いただいた点は、今後市として施設の管理・運営するうえで考慮すべき事項として整理させていただきます。

賃貸するうえでの固定費について

- 前事業者への貸付条件は以下のとおりです。

	使用場所	金額	根拠
賃借料	1F レストラン	無償	公募型プロポーザル実施要項
	1F 物産コーナー		
	2F キッズスペース		
	2F セミナールーム		
	3F イベントスペース		
	賃貸借契約になかった施設や区画 (グラウンドや駐車場などをイベントで使用する場合)	別途専有面積に応じて料金を定め請求	契約書
工事費	賃借している部分の改修工事費	全額事業者負担	契約書
共益費	各種法定点検費用、 維持管理費用、消耗品など (専有面積割合で算出)	10万弱/月	共益費覚書 月額10万とし、その後実費精算
水光熱費	実際に使用した額を 市から請求し支払う	実費相当額(*)	契約書

- 実費相当額(*)としている光熱水費は下の表のとおりです。(R4.8~R5.2の実績(平均))

部屋(普通教室棟)	種類	月額(平均)
1F レストラン	電気代(空調)	約5.0万円
	電気代(電灯)	約3.8万円
	水道料金	約3,000円
	下水道使用料	約2,500円
1F 物産コーナー	電気代(空調)	約2.7万円
	電気代(電灯)	約3.5万円
2F キッズスペース	電気代(空調)	約2.0万円
	電気代(電灯)	約5,000円
	水道料金	約100円
	下水道使用料	約100円
2F セミナールーム	電気代(空調)	約4,000円
	電気代(電灯)	約500円
3F イベントスペース	電気代(空調)	約7,600円
	電気代(電灯)	約5,700円
	水道料金	100円未満
	下水道使用料	100円未満

- 既に普通教室棟は一部を除き前事業者の負担により改修済みであり、こういった活用方法になるかも未定のため、再活用事業における貸付条件は現在検討中であり未定です。
- 具体的な貸付条件は、再活用の方針作成後決定する予定であり、今回の事業提案にあたっては事業提案者のご理解のもと、賃借料など金額面の条件は提示していません。

再活用を検討するうえでの市役所内の体制について

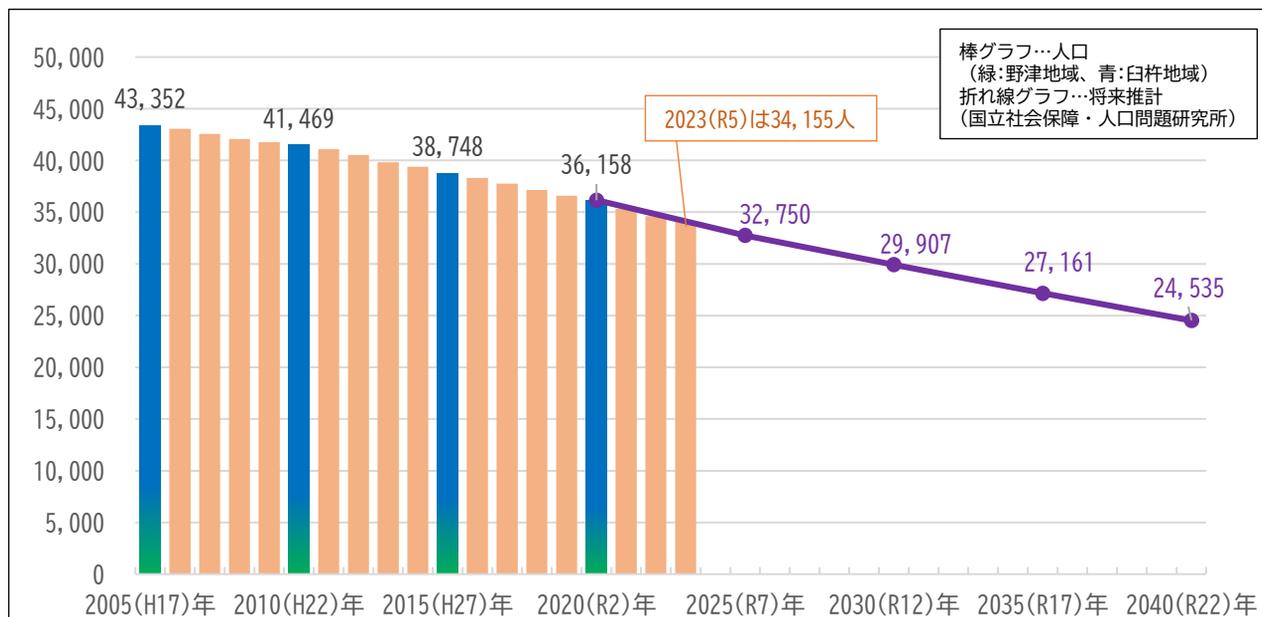
氏名	役職	再活用検討委員会
平山 博造	政策監(総務・企画担当)	委員長
佐藤 一彦	政策監(産業担当)	副委員長
柴田 監	政策監(市民担当兼福祉保健担当)	委員
高野 裕之	政策監(インフラ担当)	委員
後藤 誠也	教育次長	委員
佐世 善之	総務課長	委員
安東 信二	秘書・総合政策課長	委員
荻野 浩一	財務経営課長	委員
川野 徳明	市民生活推進課長	委員
目原 康弘	農林振興課長	委員
竹尾 智明	農林振興課参事監	委員
内藤 健治	秘書・総合政策課 総括課長代理	事務局
狭間 隆則	秘書・総合政策課 課長代理	事務局
祖父江 伸矢	秘書・総合政策課 主幹	事務局(※主担当)
青山 昌平	秘書・総合政策課 副主幹	事務局
板井 龍法	秘書・総合政策課 主任	事務局

全ての政策監

関係課の管理職

この他、市民会議には事務局の補佐として関係課の職員が適宜参加しています。

臼杵市の人口の推移及び今後の推計



人口の推移 (旧市町別)

	2005年	2010年	2015年	2020年	2005→2020
臼杵市	43,352	41,469	38,748	36,158	-16.6%
旧:臼杵市	34,346	33,118	31,165	29,418	-14.3%
旧:野津町	9,006	8,351	7,583	6,740	-25.2%

世代別人口の比較 (2005→2020、旧市町別)

2005年	人口				割合		
	全人口	15歳未満	15~64歳	65歳以上	15歳未満	15~64歳	65歳以上
臼杵市	43,352	5,216	25,229	12,905	12.0%	58.2%	29.8%
旧臼杵市	34,346	4,240	20,238	9,866	12.3%	58.9%	28.7%
旧野津町	9,006	976	4,991	3,039	10.8%	55.4%	33.7%

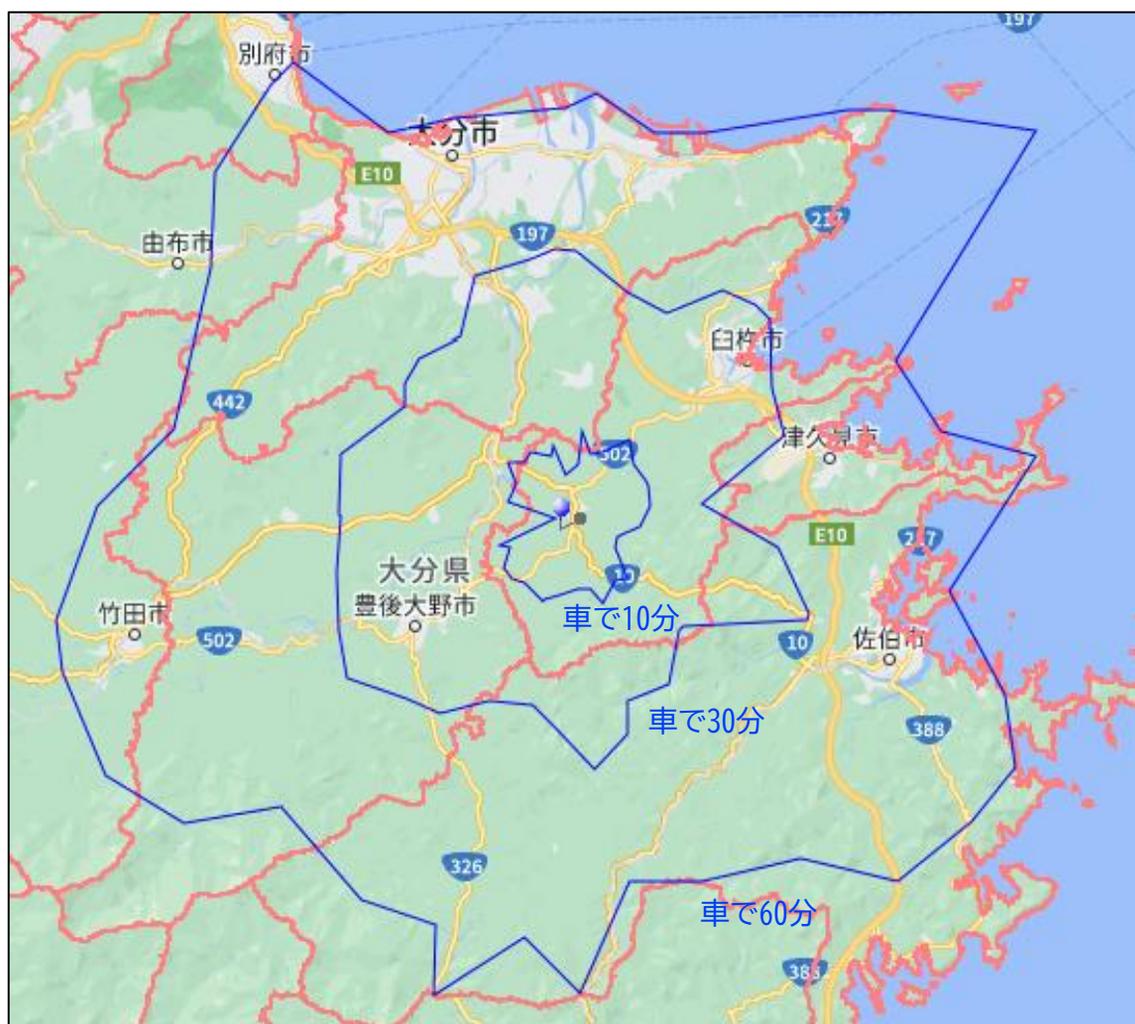
2020年	人口				割合		
	全人口	15歳未満	15~64歳	65歳以上	15歳未満	15~64歳	65歳以上
臼杵市	36,158	3,741	17,485	14,828	10.3%	48.4%	41.0%
旧臼杵市	29,418	3,169	14,414	11,732	10.8%	49.0%	39.9%
旧野津町	6,740	572	3,071	3,096	8.5%	45.6%	45.9%

※国勢調査では年齢不詳の人がいるため、各世代の合計と総人口は一致しない

高齢者数の将来推計 (臼杵市全体)

	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
65歳以上	14,853	14,502	13,624	12,585	11,870
75歳以上	8,048	8,962	8,951	8,538	7,779

旧野津高校跡地までの所要時間別（人口、事業所数・従業員数）



	R2国勢調査		R3経済センサス基礎調査		
				事業所数	従業員数
車で10分	人口	5,370	全産業	317	2,675
	年少	500	第1次産業	7	55
	生産年齢	2,480	第2次産業	57	767
	老年	2,390	第3次産業	253	1,853
車で30分	人口	82,060	全産業	6,276	63,457
	年少	9,604	第1次産業	79	775
	生産年齢	41,555	第2次産業	986	14,051
	老年	30,443	第3次産業	5,211	48,631
車で60分	人口	671,122	全産業	26,589	272,043
	年少	83,606	第1次産業	296	3,033
	生産年齢	365,566	第2次産業	4,050	57,233
	老年	207,428	第3次産業	22,243	211,777

旧野津高校跡地までの交通アクセス

J R 犬飼駅（豊肥線） 8.5km（車で12分）
上り（熊本方面） 22便（最終0:00発）
下り（大分方面） 25便（最終22:47発）
菅尾駅（豊肥線） 10.2km（車で14分）
上り（熊本方面） 22便（最終0:08発）
下り（大分方面） 25便（最終22:39発）

バス 野津南保育園前バス停
伯大線（毎日、佐伯⇄大分、各5便ずつ）
臼三線（毎日、臼杵⇒三重7便、三重⇒臼杵8便、休日6便）
コミュニティバス南野津・東谷線（火・木、野津市⇄菅尾駅、各3便ずつ）
コミュニティバス白岩線（火・木、野津市⇄白岩、各2便ずつ）

フェリー 臼杵港（臼杵～八幡浜間） 17km（車で27分）
宇和島運輸 7往復／日
オレンジフェリー 7往復／日
西大分港（西大分～神戸） 34km（車で50分）
さんふらわあ 2往復／日

自動車

臼杵市役所臼杵庁舎 17km（車で27分）
東九州自動車道 臼杵IC 14km（車で19分）
東九州自動車道 米良IC 23km（車で30分）
中九州横断道路 犬飼IC 8.5km（車で12分）
大分市役所 30km（車で45分）
豊後大野市役所 15km（車で22分）
佐伯市役所 28km（車で36分）
道の駅やよい（佐伯市） 22km（車で27分）
道の駅みえ（豊後大野市） 10km（車で15分）
道の駅きよかわ（豊後大野市） 24km（車で30分）
道の駅おおの（豊後大野市） 23km（車で25分）
道の駅きよかわ（豊後大野市） 10km（車で15分）

旧野津高校跡地付近の自動車交通量



昼間12時間(7-19)自動車類交通量

	小型車	大型車	合計
上り	3,911	381	4,292
下り	3,367	336	3,703
上下計	7,278	717	7,995

24時間自動車類交通量

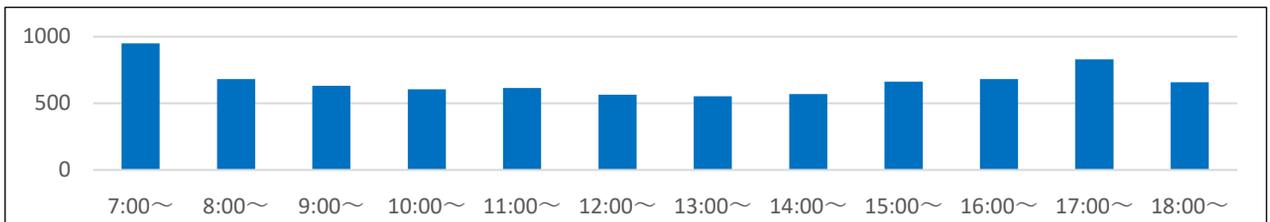
	小型車	大型車	合計
上り	4,769	510	5,279
下り	4,105	450	4,555
上下計	8,874	960	9,834

※H27の昼間12時間の合計は9,109台、24時間の合計は11,221台（ともに約12%減少している）

他の道路との比較

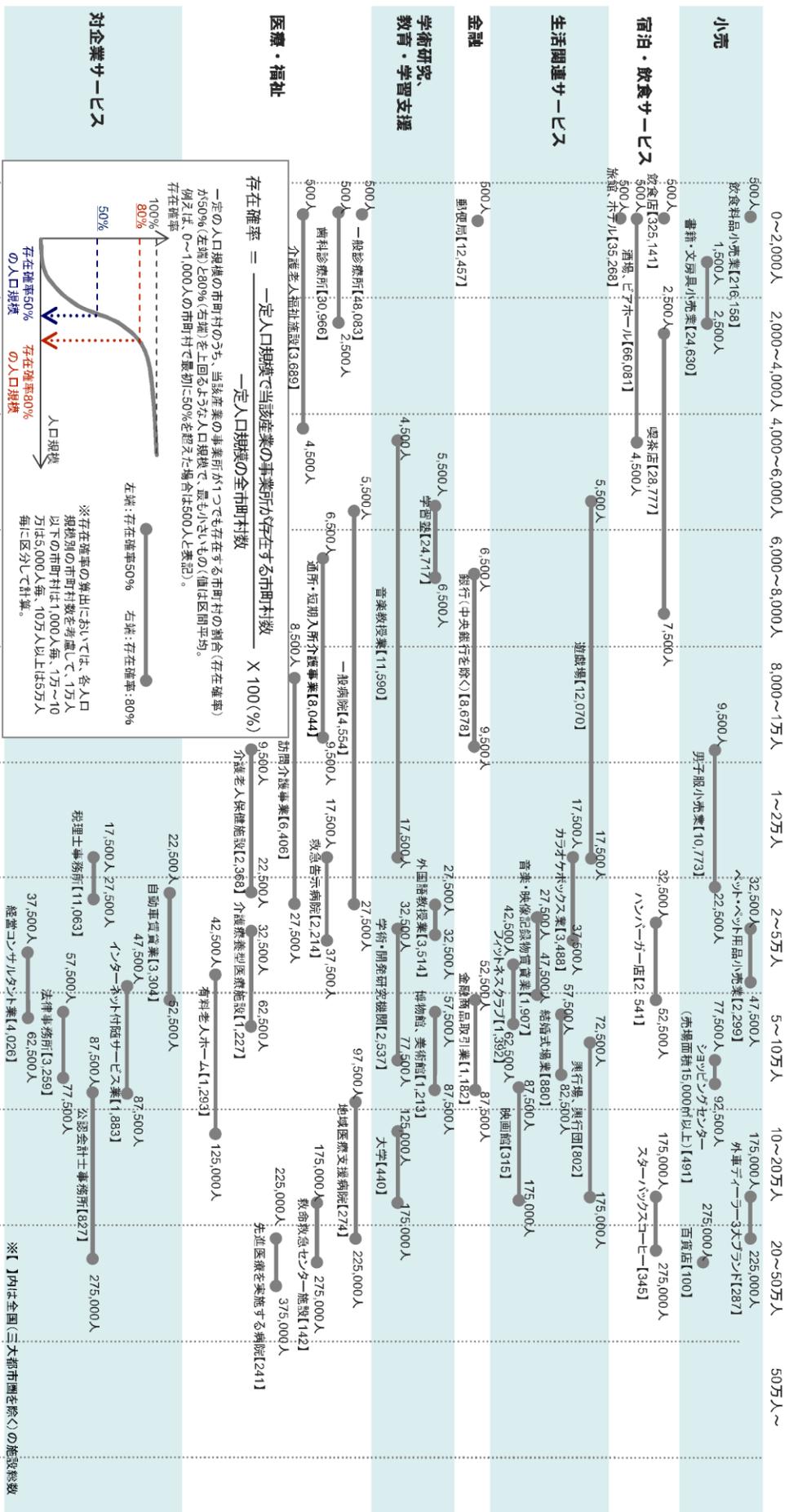
	昼間12時間	H27比	24時間	H27比
旧野津高校跡地付近(10号)	7,995	-12%	9,834	-12%
道の駅みえ付近(326号)	6,767	-3%	8,391	-4%
道の駅やよい付近(10号)	8,234	+24%	9,394	+19%
道の駅佐賀関付近(197号)	7,862	+8%	9,749	+7%
道の駅うめ(326号)	1,580	-23%	2,009	-28%
臼杵市土橋付近(502号)	11,667	-7%	14,700	-7%
別大国道(10号)	46,904	-7%	64,258	-7%

昼間12時間(7-19)の時間別自動車類交通量



第1回のグループディスカッションの際に、人口規模に応じたサービス施設立地の可能性についての資料をもとに議論している班がありましたので、その資料をご紹介します。

サービス施設の立地する確率が50%及び80%となる自治体の人口規模(三大都市圏を除く)



参加者からの参考資料①

(注1) 2050年の市町村別人口は、国土交通省国土政策局推計値
(注2) 2010年、2050年ともに、人口規模別の市町村数は、平成22(2010)年12月1日現在の三大都市圏を除く1,260市区町村を基準に分類

(出典) 総務省「平成21年度経済センサス」、厚生労働省「医療施設調査 病院報告(平成24年10月)」、同「介護サービス施設・事業所調査(平成24年10月)」、日本救急医学会HP、welles HP、日本コンビニエンスセンター協会HP、日本百貨店協会HP、メルセデスベンツ・ウォルクスグループ・BMW各HP、スターバックスコーヒー・ジャババ資料をもとに、国土交通省国土政策局作成

参加者からの参考資料②

第1回のグループディスカッションの際に、「IT企業の地方オフィス化」というご意見がありました。その班の参加者の方より、「既存の施設を活用した地方創生の取組の例として、他の方がよりイメージしやすいように」ということでネットの記事をご紹介します。記事の内容を全て記載するとボリュームが多すぎるため、見出しとURLのみご紹介させていただきます。

① <https://mainichi.jp/articles/20231206/k00/00m/020/039000c>
アクセンチュア、群馬県庁入居半年 IT人材続々流入 従業員倍に



② <https://www.nikkei.com/article/DGXZQ0CC081J60Y3A600C2000000/>
アクセンチュア、群馬県庁30階の新拠点を開所



③ <https://www.accenture.com/jp-ja/about/accenture-innovation-center-fukushima>
アクセンチュア・イノベーションセンター福島
市民中心のスマートシティそして地方創生・デジタル田園都市国家構想の実現へ



④ <https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000355.000019290.html>
アクセンチュアが支援するスマートシティ事業が、
デジタル田園都市国家構想推進交付金タイプ3 に採択



⑤ <https://www.itmedia.co.jp/business/spv/2401/31/news001.html>
会津若松にアクセンチュアのイノベーション創出拠点、なぜ？
現地で見えた「東京じゃ経験できない」地方ビジネスの“今”

